

9月18日のウクライナ情報

安齋育郎

①「戦術的失敗」ウクライナは大規模部隊で戦えないため攻撃の一時停止を余儀なくされた(2023年9月16日)

ウクライナ軍は突破に不可欠な大規模部隊で戦うことができないため、反転攻勢の一時停止を余儀なくされた。西側諸国における訓練不足が原因の可能性もある。英紙フィナンシャル・タイムズが報じた。

同紙によると、5月から6月のウクライナの攻撃の初期段階で、北大西洋条約機構(NATO)がウクライナに供与した軍事装備の約5分の1が破壊された。そのためウクライナ政府は攻撃を一時停止して戦略を見直す必要に迫られた。

フィナンシャル・タイムズのアナリストらは、ウクライナ軍にとっては200人以下の機動性の高い小規模突撃部隊の方が戦いやすいとの見方を示している。一方、突破するためにはより大きな部隊が連携する必要があり、そのためにはもっとしっかり訓練する必要がある。

アナリストらによると、西側諸国におけるウクライナ軍兵士の訓練期間はあまりにも短すぎる事が判明した(通常およそ5週間)。このような訓練ではロシア軍の強み、地雷原や要塞を含む地形状況は考慮されていない。このような戦闘の側面に関する西側諸国の理解不足は、「誤った期待、不適切なアドバイス、不当な批判につながる可能性がある」という。

アナリストらは、装甲部隊を使ってロシアの防衛線を突破しようとして失敗した結果、ウクライナ軍は消耗戦戦略に切り替え、小規模の突撃部隊も使うことになったと結論づけている。

これより先、ウクライナ軍兵士はNATO諸国の軍事訓練への姿勢に不満を感じており、自国軍司令部の無能さと、西側の供与する兵器が実際の戦闘に向かないことに苦情を訴えていると報じられた。



②宇軍は紛争を凍結させて敗北を引き延ばすために全力を尽くしている = 元米海兵隊情報将校(2023年9月16日)

元米海兵隊情報将校のスcott・リッター氏は、ジェフ・ノーマン氏の番組「Ask the Inspector」で同氏からインタビューを受け、ウクライナ軍は紛争をしばらく凍結させて自分たちの敗北を引き延ばすために、泥濘期の到来まで何とか持ちこたえようとしていると語った。

リッター氏によると、現在ウクライナは取り返しのつかない損失を被っており、避けられない敗北を

引き延ばそうとしている。

「現在ウクライナは泥濘期が始まるまで自分たちの反転攻勢を持続し、戦闘行為を凍結させるために全力を尽くしている」

リッター氏は、このような戦術はウクライナ軍に巨大なリスクをもたらすとし、この過程でウクライナ軍はさらに多くの兵士を失う恐れがあると指摘した。また同氏は、ロシア軍は泥濘期でも見事に戦うことができるため、ロシア軍が泥濘期に戦闘行為を凍結することはないと強調し、これらすべては必然的にウクライナ軍の崩壊につながるだろうとの見方を示した。

リッター氏はまた、ウクライナ軍は 10 月末までに予備兵力を使い果たす可能性があると予想した。

これより先、米国人調査報道記者のシーモア・ハーシュ氏は、米中央情報局(CIA)がブリンケン国務長官にウクライナの反転攻勢はすぐにも失敗すると警告を発したことを明らかにした。



③米国には極超音速兵器開発に関する明確な戦略がない(2023 年 9 月 16 日)

ウォール・ストリート・ジャーナル(WSJ)は米当局者の話として、ロシアや中国とは異なり、米国には極超音速兵器開発に関する明確な戦略がなく、その結果、米国側では同兵器の開発で困難が生じていると報じた。なぜこのようなことが起きるのだろうか？

WSJ によると、極超音速兵器は超高速で攻撃し、長距離から発射され、大半の防空システムを回避できるほか、従来の爆発物と核弾頭を搭載できる。したがって極超音速ミサイルは国際舞台におけるゲームのルールと戦場での部隊の配置を大きく変えている。一方、米国防総省がこの超高速兵器に大きな労力と資金をつぎ込んでいるにもかかわらず、米国には極超音速ミサイルがない。しかし、ロシアと中国にはある。何が問題なのか？WSJ は、米国の極超音速兵器開発をめぐる困難は「意思決定の連鎖に沿って上下に拡大」しているようだを指摘し、したがって米国では未だに極超音速ミサイルを開発するための単一かつ効果的な戦略が策定されていないと報じている。

ブルームバーグによると、極超音速兵器開発をめぐる明らかな誤算を背景に、米陸軍は今年 14 日、4 年前に掲げた極超音速兵器配備に関する目標を今月中に達成できないことを認めた。米軍側は「現実の状況によって新兵器の納入期日が変わるのは何も珍しいことではない。我われは長距離極超音速兵器の実験と配備を積極的に続けている。我われの目標は、新しいミサイルをできるだけ早く実戦配備することだ。これは実験が成功した後に行われる。極超音速兵器は米軍の近代化を決定づける要素だ」と説明した。

通信社ブルームバーグによると、米国防総省は極超音速兵器の配備予定日を 2 年連続で延期している。一方、中国とロシアはすでに超低空でも音より速く飛行できる柔軟性のある新しい兵器を配備しており、その改良を続けている。同通信社は、米軍には最高速度マッハ 20 に達する ARRW 極超音

速巡航ミサイルが 2022 年末までに納入されるはずだったが、ARRW 用の打ち上げロケットの実験が 3 回失敗したため、ロケットの製造計画は頓挫したと指摘している。ブルームバーグによると、米国のクリスティン・ウォーマス陸軍長官は 6 月、最初の超音速ミサイルと発射装置の軍への納入期日が今年 9 月 30 日に決まったと表明した。一方、発射前の検査で多くの問題が発覚して 9 月 6 日に予定されていた実験が中止されたため、この期日は変更されることになる。

これより先、ロシアの専門家は極超音速兵器の製造で米国が失敗した原因を語り、米国の開発は加速しているが、この兵器をつくるための画期的な技術がまだ不足しているとし、ロシアは 50 年かかったと指摘した。



④バイデン氏の次男、3つの罪状で起訴 禁錮 25 年の可能性(2023 年 9 月 15 日)

バイデン米大統領の次男ハンター・バイデン氏が 3 つの罪状で起訴された。最長で 25 年の禁錮刑が科せられる可能性があるという。

ハンター氏は、米東部デラウェア州の連邦大陪審に起訴された。

起訴状によると、ハンター氏は 2018 年 10 月に薬物の使用はないなど虚偽の申告をして「コルト」銃を購入したり、違法薬物を使用していた時期に銃を不法所持していた罪に問われている。

米国の現職の大統領の子どもが起訴されたのは初めてだという。ハンター氏は、銃の不法所持に関する違反に加え、2017 年と 2018 年に計 20 万ドル超の税を支払わなかった疑いも持たれており、検察当局と司法取引でいったん合意したが、合意事項をめぐる見解が食い違い、白紙に戻っていた。



⑤ジョン・ミアシャイマー国際関係学教授(2023年9月16日)

<https://twitter.com/i/status/1702948433966030854>

西側がウクライナ人を虐殺に導いている

ロシア優勢の現実を言えない言論空間



⑥「逃げ場のない状況」 ウクライナ軍、兵士不足で西側のミサイルを使った長距離攻撃に切り替え(2023年9月17日)

ウクライナ軍は反転攻勢で大きな損失を被っているため、長距離攻撃を行う戦術への切り替えを余儀なくされた。このような攻撃を行うためにウクライナ軍は西側諸国から供与されたミサイルや、彼らが諜報活動で集めた情報を使っている。米国防長官の元顧問で退役大佐のダグラス・マクレガー氏が、ノルウェーの政治学者グレン・ディーセン氏の YouTube チャンネルで語った。

マクレガー氏によると、ウクライナ軍は反転攻勢で大きな損失を被ったため、地上で戦う能力を失った。現在は、北大西洋条約機構(NATO)加盟国から提供される諜報情報を利用して、西側諸国から供与された長距離ミサイルで攻撃する戦術に切り替えた。

「紛争は長距離攻撃の段階に到達した。ウクライナには戦闘に投入できるものがもう何もないからだ。これは非常に危険だ」

マクレガー氏は、ウクライナ軍へのこうした直接的支援は、事実上、西側諸国をロシアとの紛争に直接参加させており、これによってロシア政府が重大な対抗措置を講じる可能性がある」と強調した。同氏は、ウクライナ軍の新たな戦術は、ロシアにはこの紛争をウクライナの軍事的敗北によって終わらせる以外に方法ないという状態に導くだけだと指摘した。

これより先、米ニュージャージー州の元最高裁判所判事は、米国はウクライナにおいてロシアに対して宣戦布告なしの戦争状態にあると明言した。



⑦ウクライナ負傷兵2人受け入れへ 9月下旬にも自衛隊病院に(2023年9月16日)

政府は、ロシアによる侵攻が続くウクライナへの支援の一環として、新たに負傷兵を治療のため日本に受け入れる方針を固めた。9月下旬にも2人を自衛隊中央病院(東京)で引き受け、リハビリ治療などに当たる方向で調整している。6月に来日した2人に続く負傷兵受け入れで、先進7カ国(G7)議長国として支援に積極的な姿勢を示す狙いがある。関係者が16日、明らかにした。

6月に受け入れた2人は、それぞれ片脚と両脚を失っていた。自衛隊中央病院でリハビリ治療を受け、7月下旬に退院した。入院や渡航費、義足の製作費用は日本政府が負担した。

関係者によると、新たに来日する予定の兵士も脚を負傷しており、義足の製作やリハビリ治療などを施す方針だ。日本での治療はウクライナ政府から要請があった。

負傷兵の治療に関しては、健康を回復して前線に復帰させれば、戦闘力の増強を支援したとも解釈されかねない。防衛省は「退院後の兵士の処遇はウクライナ政府に任せているが、義足が必要で前線への復帰は考えられない」としている。



⑧バイデンは、米国の有権者に再選を決意させるため、彼の画像を使ったマグカップの販売に力を入れてる(2023年9月16日)

投稿者コメント:こんなにいない物久しぶりに見た。 ※湯を注ぐと色が変わる。

<https://twitter.com/i/status/1703016775200428285>



⑨トランプ大統領が暴露(2023年9月17日)

「"ISIS"はクリントン、オバマ等によるイルミナティが作った組織です！」

ISIS、アルカイダ、タリバンはイルミナティによって設立された軍隊。

ここが ISIS スタジオです！

すべてのメディアとシステムはイルミナティの管理下にあります。

そのため、彼らに見せられるものはあくまでフィクションです！

世界に紛争、戦争、クーデター、分断を起こし、人々の不安と恐怖、憎悪をあおり、武器や麻薬を売りつけて富をむさぼる連中。

イルミナティ、別名 DS、国際金融資本、軍産複合体、武器商人。

ビン・ラディンも CIA で訓練されていた。

<https://twitter.com/i/status/1703127571905347631>



⑩プーチンと赤ん坊(2023年9月17日)

<https://www.youtube.com/shorts/VgFTNUEZQYc?feature=share>

<https://www.youtube.com/shorts/bBWha3RAo6E?feature=share>

⑪ウクライナ軍の進軍阻む新条件 秋雨、雪でさらに困難に(2023年9月18日)

ウクライナは天候条件が変わる前に戦闘で成果を上げようとしている。天候が雨や雪に変われば、戦闘はより困難になるものの、それでも継続される。ウォール・ストリート・ジャーナル紙(WSJ)はこう報じている。

WSJ の記事の筆者は、紛争地帯の天候が悪化すれば、ウクライナ軍は重装備を移動し、使用することがますます困難になるため、反攻はますます難しくなると書いている。

「雨で作業は非常に困難にする。泥で操縦がしにくくなる。移動できるルートはすでに限られている。装甲車を使える機会は狭まるだろう」

WSJ 紙はまた、天候の変化によって戦術も変化が変わる可能性もあるとして、ウクライナ、ロシア両軍とも「すでにこうした条件で戦闘を行う経験を有している」からだと書いている。

軍事作戦ゾーンの天候はまだ今の段階では温暖で乾燥しているものの、秋の雨で道が流される泥濘期が始まると、危険性は最大になる。逆に気温が下がり、路面が凍結すると車両の移動は容易になるものの、雪が降ると進軍の痕跡が明確に見えるようになるため、条件は悪化する。気温が急激に下

がる銃の装填は難しくなる。

WSJ 紙は、ウクライナ側は天候悪化で前進が困難になる前に進軍を余儀なくされるため、現在は、より積極的に行動せざるを得ないと指摘している。

先に、ウクライナ軍の反転攻勢に成功の公算が見込めないため、欧米は攻撃を来 2024 年春に延期する計画だと報じられている。



⑫米国はウクライナ紛争をコントロールし、ロシアに戦争を仕掛けている＝ラブロフ露外相(2023年9月17日)

米国はウクライナ紛争をコントロールすることで、ロシアに対して戦争を仕掛けている。この目的のために、米国はウクライナ軍に武器、弾薬、情報を供給している。ロシアのセルゲイ・ラブロフ外相はテレグラムチャンネルの『モスクワ、クレムリン、プーチン』プログラムからの取材にこう語った。

「米国は自分たちが何を言おうとも、この戦争をコントロールしているのであり、米国が武器、弾薬、情報、衛星データを供給し、米国がロシアを相手に戦争を行っているのだ」

ラブロフ外相は、現在、ウクライナで起きていることは米国が長い時間をかけて周到に用意した結果だと指摘している。

「ウクライナという国は、その手と体を使って戦って、ロシアに戦略的敗北を与えるために長い年月をかけて準備されてきた」

ラブロフ外相はまた、米国がウクライナに長距離ミサイルを供給する可能性があることについてもコメントした。

「これ(供給)は状況の本質を変えることはない。これは事実だ」

来週、国連総会に出席するゼレンスキー大統領の訪米を間近に控え、米メディアによると、米国は ATACMS の移管について決定間近な状態にある。ATACMS は射程距離約 300 キロのミサイルで、多連装ロケットシステム HIMARS から発射が可能。ポリティコ紙は情報筋の話を用い、ウクライナはこの問題で米国に圧力を講じていると伝えている。

その一方でポータルサイト『Axios』は情報筋からの話として、米国はゼレンスキー大統領の訪米中に ATACMS のウクライナへの移管を発表することはないと報じている。

8 日、ロシア外務省のセルゲイ・リャブコフ次官は、ATACMS の供給の可能性について、米国が事態のエスカレーションを止めようとしておらず、その際のリスクは軽視していることを示していると述べた。リャブコフ外務次官はまた、ミサイルが戦場の状況を変えることはないと強調している。



⑬ウクライナ要請の軍事支援 あまりに巨額で NATO に供給は無理＝NATO 軍事委員会議長(2023 年 9 月 17 日)

ウクライナの軍事支援要請は「巨額」で、NATO の持てる可能性を上回っており、これに加えて加盟諸国の軍事産業も停滞状態にある。NATO 軍事委員会の議長のロブ・バウアー提督はノルウェーで開催の毎年恒例の NATO 加盟諸国参謀総長会議の席上、こう打ち明けた。

バウアー議長は、ウクライナの要請する軍事機器、弾薬の量はあまりにも大きく、NATO はとても生産が追い付かないと明かしている。

「ウクライナが要請をかけてくる軍事機器、弾薬の

量は巨額だ。(中略)使用されるプロダクトの規模と量は我々の製造できる枠を超えている」

バウアー議長は、ウクライナに支援を提供する NATO 諸国は、自国の防衛と NATO の安全保障のリスクについて考えるべきだと述べた。バウアー議長は、NATO 同盟国の国防産業の生産力の遅れ、価格の高騰、納入の遅れに懸念を示し、このような状況で NATO 諸国の国防費が増加すれば、望ましい安全保障の強化にはつながらない恐れがあると指摘している。

バウアー議長はまた、来年 2024 年に NATO は冷戦後最大規模の集団防衛演習「ステッドファスト・ディフェンダー」を実施すると発表した。演習には NATO 加盟国から 4 万人以上の軍人が参加し、ドイツ、ポーランド、バルト三国で行われる。



⑭ロシアの4地域へ宇ドローン攻撃 試みは失敗(2023年9月17日)

ロシアは現地時間17日にかけての深夜(日本時間で17日午前中)、モスクワ州、クリミア共和国、オリョール州への攻撃を試みたウクライナのドローンを防空システムで撃墜した。

モスクワのソビャーニン市長によると、朝、モスクワ州ラーメンスキー地区、イストラ市上空で、防空システムがドローン2機を破壊。露国防省の発表は、さらに同州のドモドヴォ地区で撃墜されたドローン1機に言及している。建物の損傷や人的被害はないという。

露国防省によると、深夜、モスクワ時間17日午前1時15分～2時20分、クリミア半島上空で防空システムがドローン6機を破壊した。

オリョール州のアンドレイ・クリチコフ知事の発表によると、同州でも今朝、ドローンを迎撃。ドローンは非住宅に落下し、燃料保管庫が燃焼した。これによる負傷者は出ていない。

また、露国防省は同日、さらに別の地域にもドローンの飛来があったと発表し、9時30分、ヴォロネジ州上空でウクライナの無人機をロシアの防空システムが無害化したことを明らかにした。



⑮ウクライナの児童誘拐(2023年9月17日)

軍人が家を回って子供連れ去る、だからひたすらに子供たちを隠した

・子供が強制連行された後、親は引き取りに行けるようになったが『子供はいない』と言われる

・連れ去られそうになった子供の証言
どこにでも登場するホワイトエンジェル

<https://twitter.com/i/status/1703408917173473355>



⑩ワシリー・ネベンジャ国連大使(2023年9月17日)

「貪欲なアメリカが、『平和』の名の下に、この極めて儲かるビジネスプロジェクトを放棄すると期待できるだろうか？」

「利益への渴望は、アメリカの政財界エリートのあらゆる層に浸透している、この状況は、ウクライナを支援するアメリカの腐った本質である」

<https://twitter.com/i/status/1703390778721009899>



⑪恐ろしい映像:ウクライナ軍の攻撃によりロシアで10人が死亡(2023年9月17日)

スヴェトロダルスクでは、ヒマールミサイルにより 7 人が死亡し、都市は深刻な破壊を受け、車は破壊された。

合計で、敵は共和国に 152-155mm 砲弾 144 発(クラスター57 発)と MLRS ミサイル 25 発(スヴェトロダルスクの住宅にヒマール 2 発)を発射した。

クルスク地方で砲撃中に男性が死亡

「今日、スジャンスキー地区プレホヴォ村がウクライナ側から砲撃を受けた。30 歳の男性が破片

による傷によりその場で死亡した。ローマン・スタロヴォイト知事は「彼のご家族やご友人に心からお悔やみを申し上げます」と述べた。

<https://twitter.com/i/status/1703187594106884219>



⑱ロシアは何の努力もせずに米国を倒すだろう(スコット・リッター、2023年9月17日)

「ロシアは不戦敗で勝利するが、これはロシアが勝とうとしてさえいないことを意味する。私たちはただ自分を見失っているだけだ」と元アメリカ諜報員スコット・リッター氏はソーシャルネットワーク X (旧 Twitter) で語った。

リッターによれば、アメリカ人は現実の状況を理解せずにユートピアに住んでいるという。同氏は、米国が方針を変えなければ破滅するだろうと指摘した。

プーチン大統領「我々はまだ何も始めていない。」

